

令和2年9月30日
株式会社シーエス・ワンテン
ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社

ディズニージュニア 番組審議会議事録

- ・日時 令和2年7月
- ・開催方法 新型コロナウイルスの影響により書面にて開催
- ・参加者 審議委員総数 8名
参加委員数 8名

(参加委員名)

- 委員長 山田 顕喜 (日本大学芸術学部映画学科元教授)
- 副委員長 前田 耕作 (生涯教育新聞社代表)
- 委員 木下 美子 (元青山学院初等部英語教諭)
- 委員 土屋 礼子 (朝日新聞社 執行役員 企画事業担当 兼 企画事業本部長)
- 委員 名越 康文 (精神科医・評論家)
- 委員 藤田 興彦 (公益法人児童育成協会理事長)
- 委員 三枝 幹夫 ((株)オリコンME WEB編集本部 ORICON NEWS 編集部 編集長)
- 委員 阿部 京子 (ナレーター・キャスター・(有)タイムリーオフィス代表)

(衛星基幹放送事業者：株式会社シーエス・ワンテン)

- 福田 泉 (代表取締役社長)
- 谷 俊之 (編成局長)

(番組供給事業者：ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社)

- 小林 信一 (代表取締役社長)
- 藤 慶英 (メディア戦略 シニアマネージャー)
- 竹内 文吾 (編成 マネージャー)
- 待鳥 雅之 (編成 アシスタント・マネージャー)
- 伊藤 由起 (編成、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社)

- ・議題 (1) ディズニージュニアの番組編成について
(2) 審議番組「トッツ とべ! あかちゃん おとどけたい」について

・議事内容

(以下、*：委員からの意見・質問、→：ディズニーの説明・回答)

(1) ディズニージュニアの番組編成について

→ミッキーマウスの新エピソード「ミッキーマウス ミックス・アドベンチャー」が放送開始。初回の7月24日(金)は、3話連続放送。

→夏休みのお子さんたちのライフスタイルに合わせて、7月20日より日中の編成を改編。「ミッキーマウス クラブハウス」や「ドックはおもちゃドクター」など、人気のシリーズを2話ずつ見られるようにラインナップしている。

(2) 審議番組「トッツ とべ! あかちゃん おとどけたい」について

放送概要：

2020年2月23日より放送開始、レギュラー枠は平日の08:30～。

各22分×20本～

番組内容：

赤ちゃんを心待ちにしているママとパパのもとに赤ちゃんを運ぶ、「トッツ」に仲間入りした仲良しコンビのピップとフレディ。コウノトリばかりのチームで初のペンギンとフラミンゴだ。名誉ある「トッツ」の新米メンバーとして活躍する二人のものがたり。

→作品の見どころは、ピップとフレディの二人が、時にはユニークな発想でピンチを切り抜け、世界のあちこちに幸せを届けるという部分。

*幼児対象の作品になっているが、もう少し上の年齢でも楽しめる。

*ピップとフレディのユニークな発想が印象的。

*未就学児が、社会性を育てる上で大切なことを美しい画と歌で、子どもたちの大好きな動物キャラクターを使って教えてくれる。

*コウノトリの専門分野に参入するペンギンとフラミンゴ。ペンギンは高く飛べないが、フラミンゴと組んで役割分担して仕事を成し遂げる姿が印象的。

*「全てのトリにチャンス」が心に残る。

*一人で無理な仕事も協力で成し遂げる、仲間を信じるといったことの大切さが込められた素晴らしい作品。

*コウノトリではなく、ペンギンとフラミンゴが赤ちゃんを届けるという筋立てとキャラクターが個性的で面白い。

- *子猫を届ける穏やかな仕事と、重さが2千キロを超えるクジラの赤ちゃんを運ぼうとする仕事の対照が面白く、みんなで知恵と工夫を出し合い、力を合わせればどんなことでもできるというテーマがよく描かれている。
- *タイトルバックでは個性のあるキャラクターが、にぎやかに勢ぞろいするので内容の面白さを予感させる。
- *絵もキャラクターもかわいい。2歳〜5歳には楽しく、親も一緒に楽しめるのではないだろうか。
- *リズムカルな音楽とミュージカル仕立ての出だしも楽しい。
- *全体に色づかいが明るく、キャラクターも生き生きとしている。
- *赤ちゃんの声や絵が特にかわいい。
- *コウノトリのことは知られているが、届け隊があるとは発想が楽しい。
- *コウノトリ以外の初めてのフライヤー、だれでもみんな平等にチャンスを与えられることが素晴らしい。飛べないペンギンまで参加というのは、今の社会を反映しているのしょう。
- *第1話では赤ちゃんが何度も戻ってくる。ものごとがそんなに簡単にいかないということが良く伝わる。
- *自分の力で自分の責任で役目を完了させて、「大切な役割」と痛感する。
- *第2話目では何度も失敗しているが、工夫と皆で力を合わせればできることの大切さが学べる。
- *でも、なぜ、フラミンゴの相棒がペンギンなのかが不思議でした。もっと小さい鳥なら、軽くて邪魔にもならないのに…？
- *一人ではできないことを皆で力を合わせればできる！というところも素敵でした。
- *一つ一つの言葉遣いが柔らかく、子どもたちに安心して見せられる。感情表現についても中途半端な感じがなく、熱中させられる作りに仕上がっている。
- *全く個性の違うコンビという組み合わせが良い。これはディズニーの伝統で、二人が友情を分かち合い、阿吽の呼吸でお互いをカバーし合っている。これがもし対象年齢上めであれば、「フィニアスとファーブ」のコンビを想起させるところがある。
- *細かく見れば、あの4羽でクジラを浮かせられるのかと力学的にはムリだろうと思うところがあったりするが、そうした大人が見れば突っ込める余地を残しているからこそ、小さい子供向けに夢があって良い。
- *一見すると手詰まりに思える状況でも、仲間と協力すれば克服できる、という点が上手く表現されている。
- *コウノトリが赤ちゃんを運んでくるという古典的ファンタジーを逆手に取り、友情や多様性を巧みに表現する良作。

- * コウノトリの中に、敢えてペンギンとフラミンゴという凸凹コンビを配置させ、ユニークかつ独自に発想で赤ちゃんを届ける…皆と異なる“羽”に悩む2人に、保育士の仲間による“羽の奥にある大切なもの”を説くシーンは、グッときました。
- * 作画も素晴らしく、仕草や表情がとても愛らしくかつリアルで、アクションシーンも見応え十分。特にペンギンの動きが素晴らしい。2歳児の私の息子も食い入るように観ていました。
- * 仲間の協力と友情がよく表現されており、キャラクターも好評と見る。

- ・ 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和2年7月以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で、活用し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

- ・ 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：

令和2年9月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上